

生ごみリサイクル教室

対 象：小学校4年生
 人 数：1クラスから4クラスぐらいまで
 教科／分野：総合学習（社会・理科・家庭）
 授業時間数：45分授業2コマ（5月又は6月、と9月）
 場 所：全員が入れる教室又は体育館など、9月の授業は校庭も使う（雨の時は屋内で）

| | |
|-----------------------------|---|
| ESD プログラ ムへの 想い | <ul style="list-style-type: none"> ・可燃ごみを減らすことが地球温暖化防止に役立つこと ・生ごみの元の食べ物について考えることから、栄養のことや、世界の食糧問題について視野を広げることが出来る ・地球上の資源の有限性、リサイクルの必要性（循環型社会への移行）についての理解 |
| 目 標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中から出てくるゴミについて、由来と行方を知ることから環境への影響について学ぶ ・特に生ごみは、自然の営みを利用して堆肥に出来ることを体験から学ぶ ・堆肥を利用して植物を育てることが出来、物質（生物の持つ栄養素）の循環、リサイクルについて理解する ・生ごみの元の食べ物についても考えを広げ、食生活を含む自分の生活と、社会、環境との関係について考え、生活者としての責任を学ぶ。 |
| 特 徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業は2コマだが、その間2～3ヶ月の内、初めの約1ヶ月から1か月半は、子どもたちが生ごみ処理体験をし、夏休みの熟成期間を経て、生ごみが土に替わるまでを見ることが出来る。また、その堆肥を使って植物を育てる体験もする。 ・ごみは生活に密着しているもので、焼却による環境問題（地球温暖化）とともに、生ごみは毎日の食事との関連から、栄養のことや、世界の食糧問題にもつなげて考えられる。 |
| 持続可能 な社会づ くりの構 成概念 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活、ごみ、環境との相互性について学ぶ。 ・生物の持つ栄養素の有限性、食糧の有限性、公平性について学ぶ。 ・生活者としての責任性について学ぶ。 |
| 重視する 能力・態 度 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの由来と行方を知ることから、消費生活について批判的に考える力を養う ・生活、ゴミ、環境、食糧について多面的、総合的に考える力を養う。 ・リサイクルのために出来ることを進んで実行（参加）する態度を養う。 ・クラス全員で生ゴミ堆肥化に取り組むことから、他者と協力する態度を養う。 |

プログラムの流れ

| 時 間 | ねらい | 方法 場所 | 内 容 |
|------------------------|--|-----------------------|--|
| 1 コ マ 目 15 | 生活とゴミ、ゴミと環 境との関連、生ごみの 由来と堆肥化につい て学ぶ | 講義 教室又は 体育館 | <ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる市町村のゴミについての学習、ゴミの内訳 ・ゴミとは？どうしたら減らせるか？減らすとよいことは？生ごみを減らすには？どうやって？ ・生ごみの元は？リサイクルするとよいことは？ |

| | | | |
|-----------------------------|--|-------------------------------|--|
| 分 | | | |
| 1 コ マ 目 30 分 | 生ごみの堆肥化方法 について体験する。 | 講義 体験 教室又は 体育館 | <ul style="list-style-type: none"> ・処理容器の構造、使い方の説明 ・基材を用意し、初めの重さを量る ・給食室からの調理残渣を、処理容器を使って処理（投入かき混ぜ）する方法を全員が体験する。 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みまで、毎日給食室からの調理残渣を当番の生徒が処理容器に入れる。全員が体験する。 ・夏休み期間中は、熟成期間 |
| 2 コ マ 目 20 分 | 微生物の働きについ て学ぶ 生物の持つ栄養素の 循環について学ぶ | 講義 教室又は 体育館又 は校庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・出来た堆肥を観察する ・重さを量って、最初の重さと比べる ・生ごみはどうやって土になったのだろう ・微生物の働きとは？ ・生ごみ堆肥を使って野菜を育ててみよう |
| 2 コ マ 目 25 分 | | 体験 校庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・植木鉢に土と堆肥を混ぜ入れ、野菜の種を蒔く |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ・水をやって育てる ・育ったら、収穫して食べる |
| SDGs との 関連性 | 2；世界の食料問題 4；質の高い教育 12, 13, 14；ゴミと環境問題 15；生ごみの堆肥化と野菜作り | | |
| 学校・地 域等との 連携上の 考慮 | 給食室からの残渣を毎日提供してもらうこと 学校内に処理容器を設置 生ごみ堆肥の使い方については、先生と相談する（2コマ目にすぐに使わずに、使い方を学校に任すこともあり） | | |
| 対象を発 展させる 可能性 | 高学年や中学生対象の時は、生ごみ資源化や堆肥化について自分たちで調べたり、出来そうな方法でやってみる（みみずコンポスト、穴掘りコンポスト、段ボールコンポストなど）のもよい | | |
| その他 補足事項 | 生ごみ処理容器として、バクテリアハウス（(株) 共進 製品名BH-5）を1クラス1台使っているが、段ボールコンポストでも出来る | | |

プログラム作成者名（団体名）：津本純子（NPO法人ビオスの会）